砂浜を守る

しゅんせつ土砂で養浜する浅羽海岸

周辺の皆さんも参加した昭和40年代の防潮工事

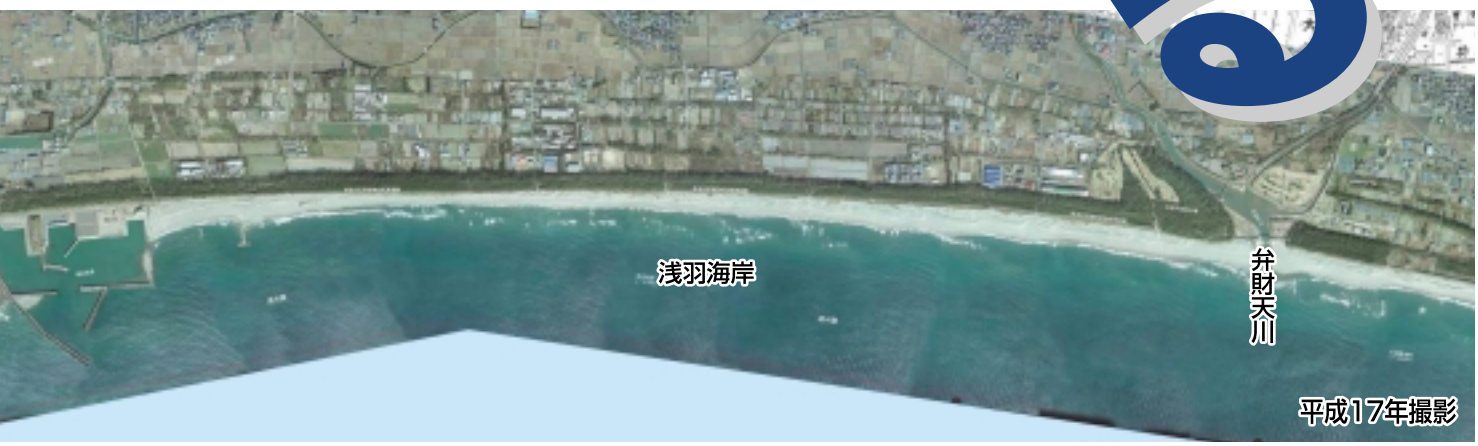
砂浜がなくなり波によって壊された御前崎の堤防

遠州灘沿岸の砂は、南アルプスや中央アルプスなどから天竜川を下り、海へ運ばれ、東西の沿岸流によって、御前崎から伊良湖岬までの117kmの海岸へ打ち寄せられます。

砂浜は、津波や高潮などの波のエネルギーを吸収し、天然の防護の役割を果たすとともに、自然と共生し、レクリエーションの場として私たちの生活を豊かにしています。

しかし、天竜川に造られたダムや海岸の漁港の防波堤、河口の導流堤（河口が閉鎖しないように造られた海に突き出した堤）などにより、砂の流れが妨げられ、海岸が浸食されています。

こうしたことから、県内の遠州灘沿岸の市町では、平成17年度に「遠州灘沿岸保全対策促進期成同盟会（袋井市、御前崎市、掛川市、磐田市、浜松市、新居町、湖西市）」を設立し、国や県とも連携を図りながら海岸の保全活動を進めています。



平成17年撮影

浅羽海岸の浸食対策

天竜川から海へ、海から海岸線へ移動する砂の連続性を確保するために取り組んでいます。

短期的な対策

▽**養浜（ようひん）**…仿僧（ぼうそう）川河口から、平成17年度は、20,000㎥、平成18年度には、25,000㎥のしゅんせつ土砂を浅羽海岸に運び、失った砂を補充しています。

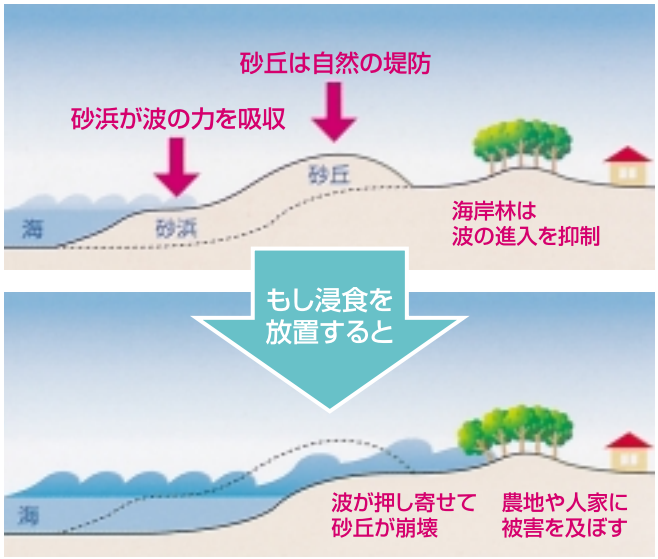
中期的な対策

▽**サンドバイパス**…天竜川から東への砂の流れを妨げる福田漁港の西側には、多くの砂がたい積しています。この砂を浅羽海岸へパイプラインにより運び、本来の砂の流れを取り戻します。平成19年度から工事を始め、平成22年度に供用を開始する予定です。

サンドバイパスの利点

従来はたい積土砂を船でしゅんせつし、これを浸食箇所までダンプなどで運搬していましたが、この方法では継続的な経費と騒音・排気ガスによる環境面の悪化が問題となっていました。

今回取り組む新たな方法は、ジェットポンプとパイプラインなどの恒久的な砂輸送システムを構築し、費用の縮減と自然環境への負荷軽減を図るものです。

長期的な対策

▽**天竜川ダム再編事業**…平成16年度から35年度にかけて、ダムの貯水池内にたまった砂の掘削や排砂する施設を設置し、砂をためないダムにします。